

協議会だより

一般社団法人久喜市学童保育運営協議会

普通に生活できることに感謝

理事長 橋本 久雄

入学・進級おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。一昨年、昨年と新型コロナウイルスによる感染症の拡大で、各御家庭におかれましても大変な思いをされて新しい年度をお迎えのことと思います。今年こそコロナ禍が収束し普通の生活が取り戻せることを切に願っています。普通に生活できることのありがたさをしみじみと感じています。

さて、本年1月の協議会だよりでオンライン会議のことを話題にしましたが、年明けに初めてオンラインによる読書を試みました。いわゆる電子書籍を購入し、スマホやパソコンで読むものです。自宅にあるデスクトップパソコンは画面の大きさが21.5インチ、ノートパソコンは15.6インチありますので、普通の書籍よりはるかに大きく見る(読む)ことができます。最初購入したのが、「となりの億り人」という題名の電子書籍です。これは、2008年(平成20年)に封切された「おくりびと」という納棺師を取り上げた映画のタイトルをもじったものとされています。内容は、いわゆる億万長者になった人はどういう生活をしているのかと作者が多くの億り人にあつた体験からのものです。金に縁がない者でも興味をそられる内容でした。その内容の一部を紹介します。

書籍の第2章に億り人の思考と行動がありますが、その中で3つの特徴を挙げています。

(自営・フリーランス編)

(サラリーマン編)

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1 約束は守る | 1 天引きの習慣を身につけている |
| 2 結論を出すのが早い | 2 生活パターンを確立している |
| 3 部屋や机がきれい | 3 <u>何でも自分で考える</u> |

これらを守れば誰でもと言う訳ではありませんが、少なくとも下線を引いた3項目は、お子様や我々でもすぐに実行出来るものではないでしょうか。

コロナ禍の影響で、私が非常勤で関わっている幾つかの組織や団体の仕事・会合の多くが中止や延期を余儀なくされましたが、逆に今までを振り返るよい時間になったのではと思うようになりました。お子様にとっても新しく始まる生活が健康で、規則正しいものになるよう心から願っています。

「語り・読み聞かせ」ボランティアの皆さんをご紹介します

語り・読み聞かせは、人の感受性や想像力を養う強い力を持っています。特に発達期の子ども達にとって大切な力だと思います。そのため各クラブでは子ども達に読んで欲しい本や興味を持ちそうな本を用意し、支援員が読み聞かせをしたり、高学年が低学年に本を読んであげたりと「本・お話」に触れる時間を多くとるようにしています。そのような中多くのクラブにおいて、「読み聞かせ」や「語り」を専門にしているボランティアの方たちに定期的にクラブへ来ていただいています。高学年になると支援員の語りにふざけてみたりすることがありますが、ボランティアの方達のお話が始まると、いつの間にかに、集中して聴いていて、お話に夢中になっています。

そんな素敵な活動を続けてくださっている4つのボランティアの皆さんをご紹介します。

代表の方に①発足からこれまでの経緯、②活動内容やメンバー構成、③「読み聞かせ」が子ども達に与える影響について、④読み聞かせ以外の活動、⑤自由意見の5つについて、それぞれお話を伺いました。

お話し会を安息の場に

かわいいおはなしかい

清久もみじクラブにて季節に合うお話もしてくださいませ。
だんだん前のめりで夢中になって見ている子どもたち。



① 平成5年、図書館の職員に「子ども達のために話し会をやって下さいませんか？」とお願いにいったところ、「皆さんでやってみてはどうですか？」とアドバイスをいただき、近隣の方たちと始めました。発足

当初は10人程のメンバーがいましたが、現在は4人で活動をしています。

② 鷲宮図書館で月2回、コミュニティセンターで月1回、学童クラブ4ヶ所で各月1回、地域の就学前のお子さん向けに年4回、児童館主催のイベントで年1～2回、教育委員会主催のイベントで年1～2回、絵本の読み聞かせ、紙芝居、ペープサート（※1）、パネルシアター（※2）等を演じています。

③ 学校でいろいろなことを頑張っている子ども達にとって、話し会の時間は安息の場所になっているかなと思っています。

就学前の小さなお子さんにとっては、保護者とのスキンシップの時間であり、笑顔で過ごせる場所になっていると思います。

④ 読み聞かせだけでなく、ペープサートやパネルシアターでのお芝居もしています。

⑤ マスク着用のお話し会が定着していますが、表情が読み取りづらいと感じています。

※1 紙の人形劇

※2 布を張った無地のパネルに不織布で作った絵を着脱させながらお話や歌を聴かせるお芝居
編集室より

主婦の皆さん4人で多くの活動をされていることに驚きました。子ども達のために素敵な活動をしてくださっていることに感謝いたします。緊張することも多い生活の中で、子ども達にとって話し会の時間はリラックスできる時間となっています。これからも子ども達をお話の世界へ案内してください。そして、また以前のようにお互いの表情を見ながら話し会ができるといいですね。

子ども達の心の奥深くに話を届ける

菖蒲おはなしかご

① 昭和62年5月旧菖蒲町の児童館において、子ども達にお話しを語ることの意義やストーリーテリング（※1）について学ぶ「児童文化講座」が開催され、その受講生による図書館での月1回のお話し会としてスタートしました。35年間活動を継続する過程では文部科学大臣賞をはじめ、文化ともしび賞、シラコバト賞等をいただき、評価していただいたことを嬉しく思っています。

「おはなしかご」という名前は、ファージョン（※2）作の児童書「年とったばあやのおはなしかご」からいただきました。

② 現在のメンバーは8名で、この内創立当初からのメンバーは2人です。また、内4人は仕事をしながら活動をしています。常にメンバー募集中です。

活動は、ストーリーテリングを主に、対象年齢に合わせて絵本の読み聞かせや手遊びも組み合わせています。また、夏には子ども達が大好きなちょっと怖いお話を体験してもらいたいと思い、夕涼みお話し会を、秋には大人を対象としたお話し会も年1回開催しています。

主な活動場所は、菖蒲図書館、菖蒲地域の小学校、白岡市の小学校1校、菖蒲地区の学童クラブ、および依頼のあった久喜市内の学童クラブです。

③ どんな時代であっても子ども達の心の奥深いところにお話しを届ける手段として「言葉」「肉声」に勝るものはないと信じています。

お話を語ること聴くことは、語り手と聞き手が同じ場所同じ時間を共有して、一緒に物語の世界を体験することだと思います。その体験はすぐに忘れてしまうものかもしれませんが、いつかふとした時に思い出し、それが生きていく知恵になったり、困難に立ち向かう勇気になったり、心豊かな人生を送る一助になっていたらいいなあと思っています。

④ 高齢者施設やデイサービスで、利用者の方と一緒に歌を歌ったり、紙芝居等を演じていましたが、現在はコロナ禍により休止しています。

⑤ 子ども達だけでなく、支援員や保護者の方も一緒にお話しの世界を楽しんでいただけたら嬉しいです。

※1 童話や体験談を通して、自身の思いを相手により明確に伝えることができる手法

※2 1920年代の代表的なイギリス人女流児童文学作家



菖蒲おはなしかごメンバーの皆さん



つばめクラブでのおはなし会
上手な語りにとんどん引き込まれていく子ども達

編集室より

変わらぬ思いで、活動を続けていらっしやることに感動し、また感謝の気持ちでいっぱいです。時代はどんどん移り変わり、今の保護者の方たちは共働きも多く、働く時間についても様々です。時代とともに便利なものも増えてきています。そんな中、人の優しい声で語られるお話を聞く時間は子どもにとっても大人にとっても癒しの時間になっています。いつまでも変わらずお元気で活動を続けて下さることを期待しています。

子ども達の五感を育てる

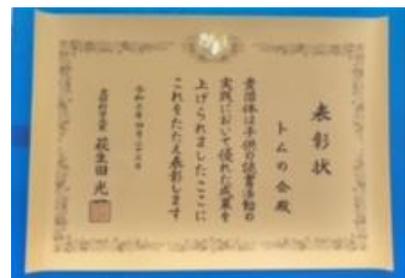
トムの手紙

- ① 昭和55年県立久喜図書館のお話ボランティアとして発足し、今年で42年目になります。平成25年には県立久喜図書館で「落語で聞くアンデルセンー世界昔話とともに」に参加し、落語家 桂 扇生さんと昔話を語りました。
- ② 現在の登録メンバーは10名ですが、常時活動できるメンバーは3、4人です。
活動は久喜図書館で毎週土曜日に子どもの部屋で開催している子ども向けおはなし会、子どもの日のイベント「大きなおはなし会」、秋には大人のためのおはなし会「おはなしを楽しむつどい」です。
- ③ 地域の大人達が学校や保育所へ行き、絵本を読んだり、昔話を語ったりすることは、子ども達にとって、普段接することのない大人を身近に感じ、友達と同じ物語を共有することができ、無意識のうちに子ども達の五感（特に感性）が育つと、長い活動の中で実感しています。
お話を聞くことで、子ども達の想像力が豊かになり、想像力は大きな発想の力や創造の力を生みます。
- ④「読み聞かせ」だけでなく、「語り」の活動をしています。
- ⑤新メンバーを募集しておりますので、興味のある方のお問合せをお待ちしています。



左 江面児童クラブにて大型絵本「半日村」読み聞かせ
だんだんお話の世界に引き込まれる子ども達

右 活動40周年の時に「子どもの読書活動優秀実践に係る文部科学大臣賞」をいただいたそうです。



編集室より

「読み聞かせ」や「語り」の活動を42年間続けることで、子ども達の成長を実感されてきたのですね。お話の世界に引き込まれた子ども達は皆いい顔をしています。そんな子ども達の表情を見ることも語り手の醍醐味なのでしょうね。子ども達だけでなく支援員も引き込まれてしまうようなお話をいつまでも続けて欲しいと思います。これからも子ども達が学童クラブでお待ちしています。

語りついで「生きる力」を養う

カタリカタリ

① 平成16年「新しい風をこの地に！」という思いから発足いたしました。

② 現在のメンバーは7名です。

活動の主な内容は、「語りつぐ戦争と平和」として、久喜市在住の戦争体験のある方のお話を聞き、「語り」にアレンジをして、若い世代に伝えていく活動をしています。小中学校で、4ヶ月間に12公演ほど行いました。

他にも、「志プロジェクト」として、久喜市出身で活躍されている方の「子ども時代、そして今どのような活動をしているか。また、子ども達に伝えたいことは何か」のお話を聞き、語りにして、多感な中学生達に伝えています。この活動は、大きな反響をいただいています。

放課後児童クラブでは、特に、夏の怪談シリーズ、年に1回の劇はとても喜んでいただいています。

③ 「カタリカタリ」はその名のとおり、「読み聞かせ」ではなく「語り」です。

昔あった出来事やお話の中で主人公がどうやって苦境をのりこえ幸せになったかを繰り返し伝えていくことで、聴き手の「生きる力」の一部になっていくと思っています。「カタリカタリ」の特徴としては、参加型を意識しています。時には、聴き手がいつの間にかに引き込まれ、語り手の一人になっていたりします。「語り手」と「聴き手」の一体感が増し、よりお話しを楽しんでいただいています。

④ 「カタリカタリ」発足のテーマの「新しい風をこの地に！」という思いを持つメンバーが集まっています。

その活動は「語り」だけにとどまらず、それぞれいろいろな活動をしています。

★手作りサークル M' RCHY (メルシー) 現在、久喜市放課後子ども教室「ゆうゆう」等で活動しています。

★野菜カフェ 「びーんず」 自然の恵みにこだわった美味しいお料理を提供しています。

★株式会社 合同テック 地域密着型で道路や建物に関すること、リサイクルにも力をいれている会社です。



左
高学年の男子が石になった男を助けようとしています

右
最後にカタリカタリの皆さんと菖蒲学童クラブの子ども達
みんなでポーズ((´▽`))



編集室より

協議会だよりの作成にあたり快くご協力をいただきまして、ありがとうございました。まずは、「語り手」自身が楽しんでいる、子ども達が笑いながら参加してくるところを見逃さず、子ども達と一体になってお話しが進んでいく様子を見させていただきました。

お話しを聞かせていただく中で、カタリカタリの皆さんそれぞれが「地元久喜市で、人とつながって生きていく」ことをとても大事にされていると感じました。

入所申請は利用希望日の2週間前までに

令和4年度からは、新入所・再入所共に申請受付から最短で2週間後が入所日になりますので、早めの申請をお願いいたします。勤務証明書が間に合わない等の理由で、申請が遅くなった場合は一時入所をご利用いただけます。年度途中の入所申請に関しましては、利用料の振替手続きを金融機関で済ませてから、申請書に利用料振替依頼書の控えを添えて各クラブへお申し込み下さい。但し、ゆうちょ銀行・ネット銀行につきましては事務局で手続きを行いますので、3枚綴りのまま申請書と一緒にご提出ください。なお、申請書・勤務証明書・同意書・金融機関振替依頼書は、協議会ホームページから印刷することもできます。（保育所の勤務証明書とは様式が異なりますので、ご注意ください）

退所につきましては、今年度同様5開所日前（閉所日は日数に含めません）までに退所届をご提出くださるようお願いいたします。

全てのクラブで子どもたちのタブレット学習が可能になりました！

協議会が運営する全クラブで、子どもたちのタブレットが利用できるようになりました。

学校にもよりますが、タブレットとノートを併用しての宿題となっているようです。タブレットに関して、子ども達はどんどん使い方を吸収していますが、学童クラブではタブレットの使い方について5つの約束事を定めています。保護者の皆様もお子さんと一緒に約束事を確認していただき、安全にタブレット学習が進められるようご協力をお願いします。

学童クラブでタブレットを使うときの5つのお約束

1. タブレットは大切に扱おう
2. タブレットは学習や宿題だけに使おう
3. タブレットを使う時は姿勢をよくしよう
4. 30分に1回は目をはなそう



5. 自分の目を大切にしよう

編集後記

今号の作成にあたり「語り・読み聞かせ」ボランティアの方々とお話しができたことをとても嬉しく思いました。協議会では、子ども達や保護者にとって質の高い保育を提供できるよう努めておりますが、地域には子ども達の成長を見守って下さる方々がたくさんいらっしゃることを改めて感じました。コロナ禍で制限はありますが、今後どのように地域の方との交流を増やしていけるかを考えていきます。

最後に、今年度も協議会のクラブ運営に対し、ご理解ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。

久喜っ子の
安全基地



発行 / 一般社団法人
久喜市学童保育運営協議会

〒346-0013

久喜市青葉1-2-2 地域交流センター内

TEL 0480-24-3922

FAX 0480-24-3924

メール : kukigakudou@feel.ocn.ne.jp

ホームページ : <https://kukigakudou.jp>